

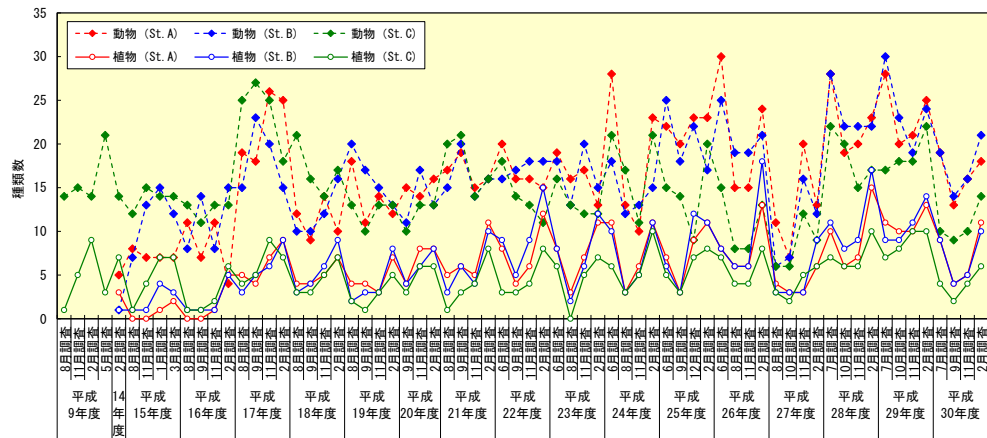


【1-7】

湾・灘の区分	大阪湾
取組の名称	堺泉北港堺2区における人工干潟の整備
事業期間及び事業費	事業期間:1999年度(平成11年度)～継続中 事業費: 不明
事業体制	【モニタリング調査実施主体】 大阪府都市整備部 港湾局 堺泉北港湾事務所 建設課 【情報共有、モニタリング調査結果の一般への周知】 大阪府都市整備部 港湾局 計画調整課 事業グループ
事業の背景・目的	昭和初期には大和川河口に三角州、同河口から堺旧港にかけて豊かな砂浜が広がり、海は人々にとって身近にあり、豊かな自然環境を形成していた。しかし、埋立等の開発事業に伴い、浅海域が失われ、水辺空間が本来もっていた生活や憩いの場、生物の生息・生産の場としての機能が損なわれたため、かつての自然を再生する手段として干潟を整備している。 整備の目的としては、『野鳥や海生生物の水域環境形成の場』及び『生物による水質浄化を行う場』を形成することとしている。
事業場所の詳細	堺泉北港堺第2区(堺市築港八幡町)地先及び周辺海域 
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・整備面積は約10ha。 ・地盤改良を行った後、盛砂・捨石を投入し、石積堤を築造。次に石積堤で囲まれた区域に隣接する大和川の浚渫土を投入して干潟を整備する。 

<p>モニタリング方法(効果の確認方法)の概要</p>	<p>○調査項目 (1)水質調査: 溶存酸素量、透明度、水温、塩分 (2)付着生物調査: 付着生物 (3)魚介類調査: 魚介類の採捕量</p> <p>○調査時期・頻度 年4回(7月、9月、11月、2月)</p> <p>○調査場所 (1)水質調査: St.1、St.2 (2)付着生物調査: St.A、St.B、St.C (3)魚介類調査: ラインD、ラインD'</p> <div data-bbox="622 560 1149 1097" data-label="Diagram"> <p style="text-align: center;">調査場所</p> </div> <p>○モニタリング方法 (1)水質調査: 採水し、溶存酸素量、透明度、水温、塩分を測定。 (2)付着生物調査: 潜水による目視観察、写真撮影、生物採取。 (3)魚介類調査: 漁業生物を採捕。</p>
<p>取組の結果等</p>	<p>(1)水質 溶存酸素量は、夏季の底層で環境基準の 2mg/L を下回り、致死濃度に達している。</p> <p>(2)付着生物 目視調査によると、植物および動物共に、既設護岸(St.C)より石積堤(St.A、B)で多く、付着植物は、春に増加し秋に減少する傾向が見られている。</p> <div data-bbox="718 1456 1069 1792" data-label="Diagram"> <p style="text-align: center;">調査地点</p> </div>

(続き)取組
の結果等



付着生物調査(目視観察)における確認種数の推移

(3)魚介類

2018年(平成30年)に実施した調査において、貴重種であるウミサボテン、ムラサキハナギンチャクの2種類の出現が確認された。

魚介類の採捕量は、干潟への土砂投入を再開したH21年度以降、低い値で推移している。



ウミサボテン



ムラサキハナギンチャク

モニタリング結果の活用方法	・モニタリング結果をホームページに掲載し、一般に周知している。
現状での課題	・平成25年度以降、干潟に投入できる土砂が無い為、土砂供給が停止している事。 ・夏季の底層における溶存酸素量が、致死濃度に達している事。
今後の予定等	・当該人工干潟の概成に向けて、埋立用材の確保を図りつつ、干潟の環境変化の推移を調べるため、環境調査を引き続き実施する。
取組事例についての発表資料等	
情報提供元	大阪府 都市整備部 港湾局 計画調整課